

自由民主党神戸市会議員団

中国管外調査報告書

平成 30 年 8 月 6 日～8 月 10 日

2018年8月10日

出張報告

自由民主党神戸市会議員団

河南忠一

中国の天津・北京にて管外調査を行いましたのでご報告申し上げます。

調査活動：2018年8月6日—8月10日

場所：天津市・北京市

- 目的：○神戸市・天津市友好都市提携の更なる発展のための意見交換。
○天津市経済技術開発区(TEDA)への視察。神戸との医療交流の可能性の調査。
○国家林業局、中国野生動物保護協会との意見交換を通じ、王子動物園へのパンダ貸与についての可能性の調査。

1) 天津市国際医療シンポジウム 2018年8月7日



主要出席者：(中国側)

天津市政府衛生計生委員会 劉氏

天津濱海高技術産業開発区 王氏

天津医科大学 孔教授

天津経済技術開発区(TEDA)管理委員会 オン氏

天津濱海高技術産業開発区 趙氏

その他

(日本側)

久元市長 今西理事 佐藤センター長

平野副議長 河南 その他

概要

神戸市からは、久元市長と今西理事が神戸市の紹介。

医療産業都市の現状説明。9600人の雇用。1500億円の経済効果。

劉氏より天津市の医療の状況の説明。

1500万都市 3級病院は43 2級病院は120 5,000以上の医療機関がある。

3万8000人に医者と3万人に看護師があり、その結果寿命は81.6歳平均となっている。中医薬大学とも連携している。

2) NPO 法人国際音楽協会主催 歌劇「夕鶴」鑑賞 2018年8月7日



天津音楽学院にて天津青年宮学生合唱団の子供たちが着物を着て、歌劇夕鶴の童役で出演。日本からの演者の皆様も日本語と中国語のパートがそれぞれあり、日本人・中国人にも楽しめるものであったと思う。日中の若年層が、それぞれの演劇を通じて、互いの文化に理解と敬意を持つことがナショナリズムを通して友好関係を育むと考える。国際音楽協会の張文乃理事長のご尽力によるところが大きい。

3) 天津市・神戸市友好都市提携45周年 天津市長表敬

2018年8月7日



出席者：中国側

張国清 天津市長

趙海山 天津市副市長 他 天津市幹部

(合計8名)

日本側

久元市長 平野副議長 河南 他神戸市幹部

(合計14名)

会談要旨

(張天津市長)

パナソニック、日立、住友、イオンなどが天津に進出しました。そして1973年に、天津と神戸市が姉妹都市として締結しましたが、それは両市にとっても非常に意義の深い出来事でございます。これはいわば天津市と海外の都市の間で結ばれた初の姉妹都市でありました。また、中国と海外の都市との間での初の姉妹都市でもあります。この、姉妹都市の締結は当時の両国指導者より大きなサポートを得られました。中国の周恩来氏がこの神戸市と天津市の姉妹都市締結に大きな役割を果たされました。それ以降両市は経済、貿易、また港、物流、省エネ、環境保護、都市の緑化、ならびに文化、教育などの分野における協力が盛んに行われてきました。これは中国と日本の間で都市間交流の一つのモデルになっていると言えます。

また、神戸市との友好交流は末永く続くものと祈念しています。また久元市長は、この度が天津初訪問であると伺っております。なので、天津については簡単にご紹介して参ろうと思います。

天津市は中央政府直轄の直轄市の四つの一つであります。いわば、首都北京の窓口的存在といえます。天津市の面積は1.2万平方キロであります。そして人口は千五百万人です。現段階におきましては、中央政府が天津市に対しての位置づけを決められておりますが、天津市は政府からの位置づけに従いながら、都市の発展を進めております。いわばこの位置づけというのは一つの基地とする、ということですが、それは全国の先端性農業の研究・開発の基地となっているということです。この全国の先端性農業の研究・開発は北京・天津などの共同で行われている戦略のアクターに置かれて続けられております。我々が持っている伝統的な強みの産業といたしましては、自動車、石油化学、そして装備の製造、また宇宙航空産業ですけれども、これから向けましては、AI産業、バイオ製薬、新エネルギーに取り組んで行こうと思います。

また、今年の5月に、天津において第2回世界AI大会を開催しました。この第2回AI大会は、非常に精巧なものでありまして、計1,800名の専門家や学者、企業さんを迎えて行いました。とりわけAI産業というのは、私たちが取り組んでいる産業の中の、重要の中の重要産業であります。そして来年5月に、第3回世界AI大会を開催する予定であります。来年の大会に向けまして、久元市長は、関係者の皆様、あるいは企業の皆様の、前向きなご参加を心より歓迎しております。この大会の参加に向けまして、これから大会についての概略の紹介とか、紹介状も出したいと思っております。

先程の1つの基地と3つの区ですが、3つの区の一つは北方における航運業のはくしん区です。中国北方における最大の港であります。世界180か国の500の港との間で貿易関係を持っています。今は天津港の取扱農業の向上を図っております。港の相互的コストの削減、または、通販効率の工場をはかっておりまして、または港の人工知能化は全国をリードしております。港に関連いたしましては、神戸市が学ばなければならないところがあるとさえ思います。これに巡りまして、両市は協力できるところがたくさんあるのではないかと考えて

おります。またもう一つの区は、金融のイノベーション、運営のモデル区となっておりますが、特に金融業におきましては、全国をリードしている存在でございます。特に金融政策に関しましては、中国は全国に先駆けての実施地となっております。そして3つの区の3番目は、改革・解放のせんこうけいでございます。天津は、中国の自由貿易試験区の一つとされておりますが、今は、自由貿易港に向けて、邁進しております。天津の海外対抗には、非常に成果豊かなものであります。現在、天津に進出している外資企業は、80,000社に上っております。そして、外資の投資額は、一千七億ドルを超えております。世界のトップ500企業の中の、167社が天津に進出しております。

次に、天津市の、生態環境分野における取り組みをご紹介させていただきたいと思っております。天津は、海拔が非常に低い地でありまして、海岸線より低いところもあります。中国北方におきましては、数多くの川が天津を経由して海に流れていきます。天津というところが、雨季になりますと、大変雨水が押し寄せてきまして、そして、それを過ぎますと、干ばつも起こりますので、ですので雨季になりますと、雨水を貯めておかなければなりません。今、生態環境分野における取り組みの一つは、天津の川を、それぞれの川を連結させまして、流動化させるようにしております。天津には875平方キロの湿地地帯を持っております。これまでは、これらの湿地において工事建設などを行いましたが、生態保護の観点からこれを是正してきております。このころ、世界各地から渡り鳥が天津に止まるようになりました。天津という街には、市街地が、2つの集中地区があるといえますが、ここが1カ所でありまして、海に近い場所にもあります。この2カ所の間、736平方キロの緑の地帯を設けております。いわば、この緑を使いまして、2つの中心街を隔離しております。つまり、この緑の地帯におきましては、経済活動を一切やらずに森や湿地、花、草などをたくさん置いております。つまり、習近平国家主席の指導に従いながら、質の高い発展を図ろうとしておりまして、生態環境の保護も大変重視しております。

神戸市は、日本の阪神工業地帯の中心的存在であるといえます。私はこの目で見たことがありませんが、神戸市は、阪神工業地帯は世界から見ても工業が発達している地帯であるとしております。また、神戸市には、先端の医療産業

を持っていらっしゃると同様でございます。また、ビジネスや貿易、観光業も大変盛んな都市であると同様でございます。ですので、神戸市はファッションの街といっても大丈夫かなと思います。これまでは天津市は中国におけるファッションの街と一時期は呼ばれておりましたが、経済などに追求しすぎたせいか、こういう言い方を失ってしまいました。いかに産業を図ると同時に、都市の魅力を失わずに、取り組んでいくかは、我々にとっても一つの大きな課題になっております。1つの都市には、生活しやすい、暮らしやすい生活環境を持つことと、あとは、若者に魅力のある生活の雰囲気を持って初めて、現在のいい都市であるといえます。

ですので、この分野において、神戸市に学びながら、そして協力も進めて参りたいと思います。神戸市は世界においても、比較的大きい港であると思いますが、日本においてもコンテナの積み下ろしが一番多い港であるといえますが、天津港のコンテナ取扱量は千五百万トに達しております。これまで天津港の発展してきた中において、神戸港より色々教わりました。最初に姉妹都市が締結されて間もなく、当時の神戸市長の、確か親族の一人の方が、天津港でいろいろ教えていただきました。いわば顧問の役割を果たされたと思いますが、なので港における両市の協力が強化されればと思います。また、これから両市の発展に向けて、人的考慮や文化・教育・スポーツ等の分野における交流や協力が強化できればと期待しています。私は、久元市長と一緒に、両市の若者のための交流のチャンスの増大に取り組もうじゃないでしょうか。両市、ないし両国の若者間の交流、あるいは相互理解、または友情の増大があって初めて、両市または両国の友好が成り立つわけでございます。この度は久元市長が神戸市の関係者 80 人にも上る代表団を率いて、天津を訪れたことを非常に喜んでおります。また、この 45 周年というイベントに、非常に精力的な取り組みに対しても感謝を申し上げます。今回は、オペラの鑑賞がありましたし、また、医療分野に関してはシンポジウムも開催されました。ですので、神戸市はこれまで沢山の取り組みをされて参りました。天津市は神戸市に負けてはいけません。特に若者のために、いろいろ取り組みをしなければなりません。改めて、歓迎の意を表します。

(久元神戸市長)

両国政府、天津市市長はじめ、天津市政府の幹部の皆様方におかれましては、大変忙しい中、私たちをこのように迎える機会をいただきまして、誠にありがとうございます。また、只今は、張市長から、大変ご丁寧な御挨拶を頂戴をいたしました。親戚のようなお気持ちでおいで頂いたというお言葉を聞きまして、大変気持ちが温まる思いがします。

今回は、神戸市会から平野昌司副議長をはじめ、各分野の代表的なメンバーで構成される八十名で天津市を訪問させていただきました。大変歓迎し、心温まるおもてなしをいただいている事に、代表いたしまして感謝を申し上げます。

私は、天津を訪れるのは初めてですけれども、天津市の歓迎ぶりを目の当たりにすることができました。それがどうして可能であるのかということについて、ただいま張市長から詳しいご説明を頂き、納得することができたように思います。先端テクノロジーをはじめとする、様々な分野の産業の育成に努め、また外資系企業の誘致に努めると共に、生態系の保護を大切にされた都市づくりを行っておられるということに感銘を覚えます。神戸市と天津市が友好都市提携を結び、45年の歳月が流れました。この間、様々な分野での交流や友好の実績が具体的に積み重ねられているのに喜ばしく感じております。天津港と神戸港との関係につきましてもお話がありましたが、友好都市提携直後に頻繁に天津市にお邪魔を致しました、当時の鳥居港湾局長の子息は、副市長として私を支えていました。去年は神戸港が開港して150年の年でしたけれども、国際港湾都市会議に天津市からも参加をし、協定を締結することも出来ました。港湾の管理という面で、今後とも様々な情報交換ができることを考えております。

未来を展望致しますと、これまでの産業の育成にとどまらず、新しいタイプの産業の形成をしていくことは、大都市にとっての一つの課題であるかと思えます。AIにつきましましては、神戸を始め、我が国でもこのAIの開発や活用に取り組んでいるところです。この分野でも先進的な取り組みをされていることに敬意を表します。3回目のAI国際会議につきましましては、是非神戸市からも行政として参加をしたいと思えますし、経済界や学界に対しましてもこの参加を要請したいと思えます。

23年前に、震災で大きな被害を受けた神戸市が、その後取り組んできた取り組み、「神戸医療産業都市構想」が、スタートをさせて20年目になります。今後は、国際医療交流にも取り組んでいきたいと思っております、今日の午前中に国際医療交流シンポジウムを天津で開催をさせていただきました。天津を始め、沢山の関係の皆様方に、出席をしていただき、ありがたく感じております。シンポジウムの後に開催されました懇親パーティーでのお話を致しますと、既にこの医療の分野では、国家同士の交流や情報交換などが進められているというふうに承知を致しました。このような提携・協力をさらに広げることが出来ればと考えています。若い世代を担い手とした、芸術文化・スポーツの交流も大事です。先程、天津音楽学院におきまして、今日出席をしておられるNPO法人国際音楽協会の主宰・張文乃先生が出席されておられますが、その主催で、歌劇が上演されました、天津市副市長にご出席をいただき、御挨拶をいただけたことも有難いことでした。この歌劇には神戸市民とともに天津の皆さん達も参加して、歌を歌われました。このように、神戸と天津の市民が同じステージで音楽の恵みを味わうということができたのは、素晴らしいことであったと思っております。

最後に、王子動物園のパンダにつきまして、一言だけ申し上げたいと思っております。2000年に中国から繁殖研究という目的でパンダのつがいが神戸市の王子動物園に貸与をされました。残念ながら、現在は雌一匹となっており、繁殖研究をしていくためには、是非ともつがいのパンダが求められているところです。是非この分野につきましても、天津市政府のご支援・ご協力を頂ければと思っております。神戸にも中国人の観光客の皆さんが沢山訪れていただき、観光という面でも天津と神戸、わが国と中国との間の関係が緊密になっていくことを大変ありがたく思っております。是非神戸も張市長がお話になられましたように、産業が盛んであるとともに、若者にとっても魅力のある都市として、発展していくことが出来るように努力をしていきたいと考えておりますので、今後の交流の深化、また進歩におきまして、よろしくご支援・ご協力いただきますようお願いを申し上げ、感謝の御挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

(張天津市長)

天津音楽学院で、孫副市長が出席してましたけれども、孫副市長は日本でも学んでいました。そして日本でも仕事をしておられました。そして、普段の仕事におきましては、お昼の時間に、孫副市長から日本留学時代のお話を色々聞かせていただきましたが、懐かしいものであるとおっしゃっております。こういう日本留学経験をもっております副市長がいることは両市の協力、あるいは協力にいいものであると思います。また、バイオ製薬は天津の産業政策の重点の一つであります。これまで、この分野において既にある程度の基礎を築いてまいりましたが、それに限らず化学合成物の薬物、あるいは漢方薬においても需要を持っております。医療機器に関してもある程度の産業を持っておりますけれども、理想的ではありません。なので天津市は今、バイオ製薬に大変注力しております。したがって、この分野における両市の協力の余地は、大きいのではないかと思うのです。先程久元市長が言ったように、10年間の経験ノウハウを持っていらっしゃるということで、なのでこの分野における交流がさらに強化されればと思っておりますが、雌一匹のパンダだけでは可哀想に見えます。パンダのつがいにつきましては、私がこれまで触れた仕事ではないですけれども、中国の関係者と前向きに、接触して図ってまいりたいと思います。また進展があり次第、ご連絡して下さい。

今、趙副市長に、パンダのつがいの指示をしておりますので、着々と図ってまいりたいと思います。改まった雰囲気になりますけれども、まあ親戚同士ですから、リラックスした雰囲気でお話ししたいと思います。

(河南所感)

中国・天津市側がバイオ産業、AI等に興味があることがよくわかった。
又、両市間で役所の人間が行き来をするだけではなく、民間を巻き込んだ行き来・交流を増やし、天津から神戸の医療産業への投資を誘発することを目指しての交流が肝要と思う。そのためには、天津事務所の人的体制を強化すべきではないだろうか？ 天津事務所は、リエゾン機能だけではなく、(企業誘致実現数等の)数値目標を作ることが必要であると思う。

(天津市の風景)



4) 天津市経済技術開発区(TEDA)への視察。2018年8月8日



出席者 (中国側)

天津経済技術開発区管理委員会副主任 干梅氏

他幹部職員

計7名

(日本側)

久元市長 平野副議長 河南

他幹部

計20名

(河南所感)

1984年に中国政府より認定された中国最初の国家級開発区の一つ。
産業毎に開発区を分けて投資環境を整えている。

トヨタをはじめ、日本の主たる企業が進出している。なかでも、バイオ産業には中国側も力を入れており、医療産業に興味があることがわかった。又、介護分野においても日本が超高齢化社会を走っており、その分野も興味をもっていることがわかった。

中国側の企業が神戸への投資を考えてもらいたい、まだ TEDA への産業誘致を行っている段階であり、いかに神戸に立地すればメリットがあるのか？強みをアピールする必要があると思った。



5) 在中国日本大使館表敬訪問 2018年8月8日



出席者 横井特命全権大使
久元市長 平野副議長 河南
その他神戸市随行者

対談概要

神戸市が日本と中国との友好姉妹都市提携という点では、200くらいある友好締結の中で1番最初に結ばれ45年も続いていることは中々ないとお言葉があった。対談概要に関しては機密事項。各種の情報交換を行った。

6) 国家林業局中国野生動物保護協会 2018年8月9日

出席者 中国側

国家林業局和草原局 譚副局長

中国野生動物保護協会

李副会長

斯部長 他

神戸側

久元市長 平野副議長 河南

その他 随行者

対談概要

5月の訪中に続けて、パンダの要請を行う。

2020年の6月から更新にかんしての交渉を行うことを確認した。

7) 中国政府外交部 2018年8月9日

出席者 中国側

孔鉉佑中国外交部部長助理

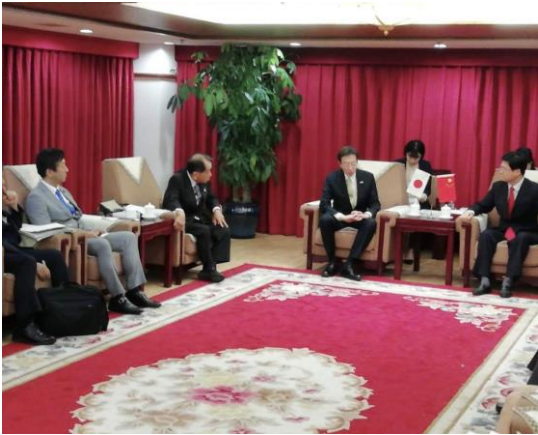
神戸側

久元市長 平野副議長 河南 神戸市随行者、外務省随行者

概要

詳細は機密事項だが、神戸と天津の友好関係、今回の訪中での事、神戸のパンダ等の事などが話された。





8) 北京外紅國際物流有限公司 2018年8月10日



面談者 脇谷英治総経理

神戸側

平野副議長 河南 神戸側随行者

面談内容 物流倉庫見学と中国国内の物流について

(河南所感)

小口物流を得意として資生堂などの化粧品などを配送する業務を行っている。
驚いたのは、以前、同社は北京の中心部に位置していたらしいのだが、国策で
中心部には物流会社は移動しなくてはならない条例が出来て、北京郊外に事業
所を移し間もないとのことであった。国家の都合で私権が著しく制限されるの
だなど驚くと同時に、中国の物流に関しては日本でのきめ細かい小口輸送のノ
ウハウが活かされることを実感した。

以上

